

追加型投信／国内／株式



WINNER OF THE 2018  
**THOMSON REUTERS  
LIPPER FUND AWARDS  
JAPAN**

中小型成長株ファンド -ネクストジャパン-（愛称：jnext）は、トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2018 投資信託部門 株式型 日本株 中小型株 評価期間 3年において最優秀ファンド賞を獲得いたしました。

## 運用実績

基準価額

35,151円

前週比

▲1,042円

純資産総額

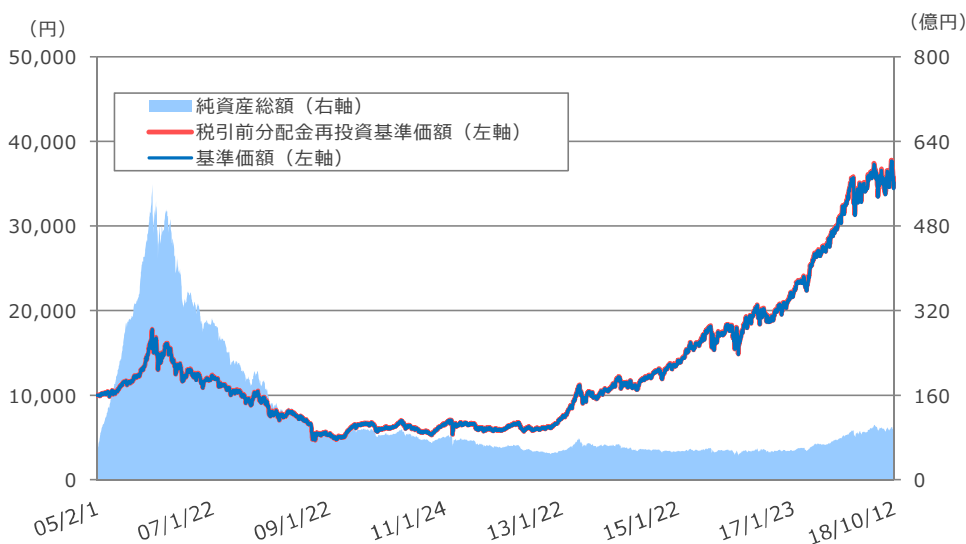
9,278百万円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

※前週比は応答日が祝日等の場合には、前営業日のものと比較を記載しています。

ファンド設定日：2005年2月1日

## 基準価額等の推移



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。

※税引前分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものととして算出しています。

## 資産構成（単位：百万円）

本ファンド	金額	比率
マザーファンド	9,240	99.6%
現金等	38	0.4%

マザーファンド	金額	比率
国内株式	19,307	96.9%
現金等	613	3.1%

※本ファンドは、中小型成長株・マザーファンドを通じて実質的に株式に投資しています。

※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

## 期間収益率

設定来	1週間	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
252.7%	-2.9%	1.6%	0.3%	2.2%	17.8%	103.8%	235.7%

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものととして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

※応答日が祝日等の場合には、前営業日からの収益率を記載しています。

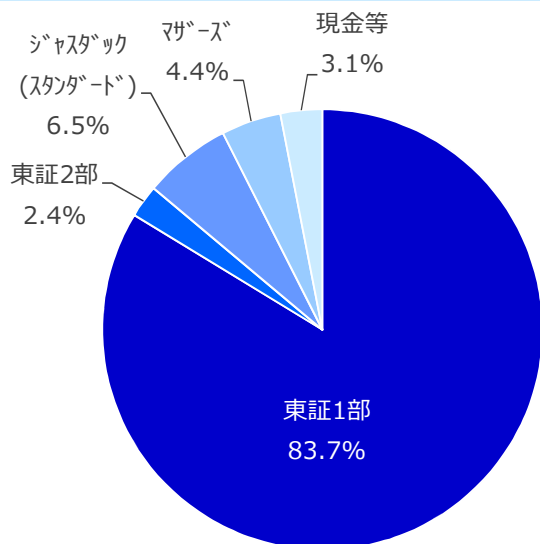
## 収益分配金（税引前）推移

決算期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	設定来累計
決算日	2014/1/22	2015/1/22	2016/1/22	2017/1/23	2018/1/22	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	50円

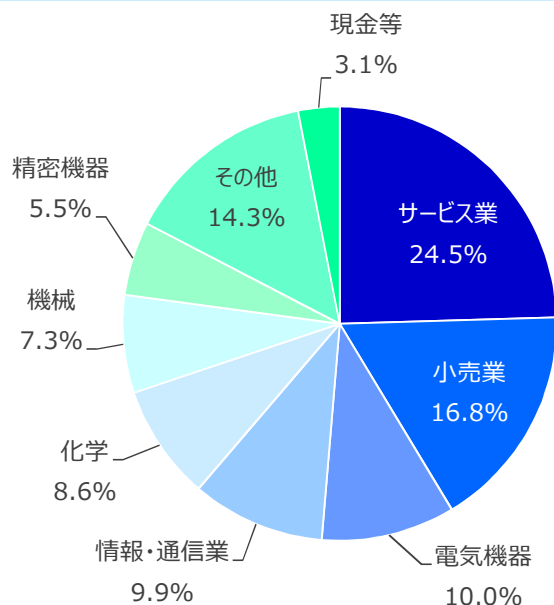
※収益分配金は1口当たりの金額です。

### マザーファンドの状況

市場別組入比率



業種別組入比率



組入上位10銘柄

	証券コード	銘柄名	市場区分	業種	比率
1	7874	レック	東証1部	化学	2.9%
2	7600	日本エム・ディ・エム	東証1部	卸売業	2.8%
3	7532	ドンキホーテホールディングス	東証1部	小売業	2.6%
4	6055	ジャパンマテリアル	東証1部	サービス業	2.5%
5	6145	日特エンジニアリング	ジャスダック(スタンダード)	機械	2.5%
6	3665	エニグモ	マザーズ	情報・通信業	2.5%
7	3549	クスリのアオキホールディングス	東証1部	小売業	2.4%
8	3385	薬王堂	東証1部	小売業	2.4%
9	8920	東祥	東証1部	サービス業	2.4%
10	9757	船井総研ホールディングス	東証1部	サービス業	2.3%

組入銘柄数

57銘柄

※組入比率はいずれもマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行っているため、マザーファンドの運用状況を表示しています。

## 投資助言会社からのコメント

### 活動メモ

近年の自動車産業は、次世代車に向けて大きな変革を遂げようとしており、今月に入ってから国内外大手自動車メーカー同士の提携や、最大手自動車メーカーと通信会社の異業種提携などの話題でにぎわっています。その際に頻繁に使われている用語が『CASE（ケース）』、すなわち「Connected = コネクティッド（インターネット通信技術搭載）」、「Autonomous = 自動運転」、「Shared/Service = シェアリング／サービス化」、「Electric = 電動化」という次世代車に関わるキーワードです。日々の個別直接面談調査の席上でもこれらの用語は頻繁に使われており、有力な事業機会として注目している経営者が多いことが窺えます。

実際、中小型株に分類される企業の中にも、こうした分野で積極的な事業展開を進めている企業が数多く存在しています。例えば、次世代車で使用される素材、電子部品、半導体、電子材料、電池、それらを作る製造装置や検査装置、製造受託、そして通信機器、ソフトウェア、AI（人工知能）、カーシェアリング等のサービスまで、実に広範な範囲に及びます。『CASE』では従来の自動車に使われなかった技術が多数盛り込まれるため、既存の商慣習に阻まれて自動車産業に関与できなかった企業にとっては、千載一遇の参入好機が到来していることになりましょう。

もちろん競争は激しくなることは必至ですが、勝ち抜くことができれば業績の大きな飛躍につながるのも間違いありません。そこで必要になるのは製品の品質、技術力、営業力だけではありません。自動車は多数の企業が関与しているため独力で立ち回るのは難しく、「どの企業と組むのか」という要素も極めて重要になります。これらを含めて様々な要因が絡み合って勝ち組が決まっていきますので、一社一社を丹念に調査・分析し、魅力的な企業を選別していくことが必要になると思います。

### 組入銘柄のご紹介：～船井総研ホールディングス（9757）～

今週は、進化を続ける独立系の総合コンサルティング会社「船井総研ホールディングス」をご紹介します。同社は国内の中小企業向けに、業界・業種ごとに特化したコンサルティング（以下、コンサル）を展開しており、現場に密着した実践的な“成長実行支援”を行っている点に特徴があります。

一般的なコンサル会社では、秀でた能力を持つ花形コンサルタントが、顧客の社長に対して“先生と生徒”のような関係でビジネスの解決策を提示する手法が主流となっています。しかし、経営課題が多様化している昨今では一個人の能力では対応しきれないほか、人材が入れ替わるとノウハウが蓄積しないという問題が生じています。そこで同社では、個人ではなくチームでコンサルを行い、ビジネスの解決策は同社が顧客企業の共同開発者として一緒に考える体制を採用しています。しかも、机上の空論になりがちな“あるべき論”を語るのではなく、例えば法律事務所ならこの分野に特化する、運送業なら採用を増やす…といった具合に、最も効果的な施策を『ズバリソリューション』として具体的に提案し、業績向上に直結させることを重視しています。また、短期集中で高額案件を実行するのではなく、『経営研究会（会員制勉強会）』や『月次支援』による長期的な関係構築に注力している点も、同社ならではの特徴です。現在（2017年実績）では約6,800名の経営者が経営研究会に入会し、月次支援の提供社数は約5,400社に達しており、これが同社のコンサルを支える強固な基盤になっているといえましょう。

現在主力の“成長実行支援”に加えて、同社では中小企業向けの支援テーマをさらに拡大させています。人材不足に対応した“人材開発支援”、M&A（企業の合併・買収）・事業承継コンサルなどの“価値向上支援”、ITを活用した“デジタル化支援”が立ち上がっており、これらを通じて総合的に顧客企業を支えながら中長期的な持続成長を図っています。

※本ファンドのマザーファンドに助言しているエンジェルジャパン・アセットマネジメントからのコメントです。

※ご紹介する企業はファンドのコンセプトをご理解いただくためのものであり、個別企業の推奨をする目的ではありません。

## ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

本ファンドは、中小型成長株・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主にわが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。

### ファンドの特色

- マザーファンド受益証券への投資を通じて、現時点では何らかの理由（課題・困難）により割安な株価ではあるものの、将来への成長機会を持つ（＝企業家精神溢れる）、革新的な高成長が期待される企業の株式に厳選投資します。
- エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社より投資に関する助言を受けて運用します。
- 本ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行い、マザーファンドを通じて実質的に日本の株式に投資を行います。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

本ファンドは、マザーファンドを通じて主に国内株式に投資を行います。株式等値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に投資する中小型株式等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。

信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

### 主な変動要因

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して変動します。本ファンドは株式の価格が変動した場合、基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
流動性リスク	株式を売却あるいは取得しようとする際に、十分な流動性の下での取引を行えず、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
信用リスク	投資した企業や取引先等の経営・財務状況が悪化するまたは悪化が予想される場合等により、株式の価格が下落した場合には基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。

### その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

### リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。

## お申込みメモ

購入単位	1口以上1口単位として販売会社が定める単位とします。詳細は販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額となります。
購入代金	原則として、購入申込受付日から起算して5営業日目までに販売会社にお支払いください。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位とします。詳細は販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額となります。 換金手数料はかかりません。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いいたします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 ※受付時間は販売会社によって異なることありますのでご注意ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限（設定日：2005年2月1日）
繰上償還	受益権の口数が10万口を下回るようになった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年1月22日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。

## 本資料のご留意点

- 本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。
- 投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
- 投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。
- お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込金額に3.24%（税抜：3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た金額とします。詳細は販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に0.3%を乗じて得た額とします。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に年1.62%（税抜1.5%）を乗じて得た金額とします。運用管理費用（信託報酬）の配分は下記の通りとします。なお、当該報酬は、毎計算期末を含む毎月22日（22日が休業日のときは翌営業日）または信託終了のときファンドから支払われます。	
運用管理費用 （信託報酬）	運用管理費用（信託報酬）	年1.62 % (税抜：年1.5 %)
	内 委託会社	年1.0152% (税抜：年0.94%)
	販売会社	年0.54 % (税抜：年0.50%)
	訳 受託会社	年0.0648% (税抜：年0.06%)
※委託会社の報酬より、投資顧問（助言）会社への報酬が支払われます。		
その他費用 及び手数料	ファンドの監査費用、有価証券売買時にかかる売買委託手数料、信託事務の処理等に要する諸費用等が信託財産から差引かれます。これらの費用は、監査費用を除き運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。	

投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 委託会社、その他関係法人

委託会社	SBIアセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）



WINNER OF THE 2018  
THOMSON REUTERS  
LIPPER FUND AWARDS  
JAPAN

中小型成長株ファンド -ネクストジャパン-（愛称：jnext）は、トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2018 投資信託部門 株式型 日本株 中小型株 評価期間3年において最優秀ファンド賞を獲得いたしました。

※トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2018について

トムソン・ロイター リッパー・ファンド・アワードの評価の基となるトムソン・ロイター リッパー・リーダーズのファンドに関する情報は、投資信託の売買を推奨するものではありません。トムソン・ロイター リッパー・リーダーズが分析しているのは過去のファンドのパフォーマンスであり、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではないことにご留意ください。評価結果は、リッパーが信頼できると判断した出所からのデータおよび情報に基づいていますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

販売会社一覧

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第44号	○	○		○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第35号	○			
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第110号	○	○		
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第61号	○	○		
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商) 第20号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第131号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	
三田証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第175号	○			

■ 販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

ファンドのご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。